

ミニシンポジウム

ノリ病気研究の現状と展望

企画責任者： 本多大輔(甲南大)・川村嘉応(佐賀県有明自然課)・有賀祐勝(無所属)

プログラム

13:00～13:05	開会の挨拶	有賀祐勝(無所属)
		座長 川村嘉応(佐賀県有明自然課)
13:05～13:30	1. 壺状菌の分類と漁場における探索	本多大輔(甲南大)
13:30～13:55	2. アカグサレ菌の分類学的研究	東條元昭(大阪府大)
13:55～14:15	3. アカグサレ菌の越夏 –生態とPCR法による探索–	横尾一成(佐賀県水産課)
14:15～14:25	質疑	
14:25～14:35	休憩	
		座長 本多大輔(甲南大)
14:35～15:00	4. スミノリ病菌のフェージによる探索と防除	三根崇幸(佐賀有明水振セ)
15:00～15:15	5. ノリ病症名の問題点と改名について	小谷祐一(水研セ西海水研)
15:15～15:25	質疑	
15:25～15:55	6. 総合討論	
	有賀祐勝(座長;無所属), 川村嘉応(佐賀県有明自然課), 本多大輔(甲南大)	
15:55～16:00	閉会の挨拶	本多大輔(甲南大)

企画の趣旨

現在、ノリ養殖は生産枚数 90 億枚、生産額は、約 1,000 億円にまで成長し、海面養殖主要種の地位を確保するまでに至っている。ノリ産業に寄与してきた研究は、品種改良、病気、養殖技術、加工技術など多岐に行われ、特に病気研究はノリの病気に関するシンポジウム(昭和 48 年4月、水産学会)において整理され、ほぼ 30 年が経過している。その間、遺伝子技術が発展し、新知見と養殖技術の創出もみられている。本企画では、近年のノリの病気研究の新知見を追加することによって、将来のノリ産業に係わる産学に寄与したい。